

目に見えない感情や感覚
言葉になる前の衝動を具現化している



「ホシノタマゴ」 インスタレーション スパイラルガーデン(南青山表参道)

白砂 勝敏 (Katsutoshi SHIRASUNA)

美術家 演奏家

静岡県出身。農業高校造園科卒業後、造園業へて美術家へ。

美術は独学。20代は1年の半分以上を国内外を放浪。

かつて造園業に従事し数々の現場で石の見方 木の読み方を学んだ。放浪の旅をする中で、自然界に抗えない力を感じ、それに同調することで自らの力を開放する事を覚えた。

2008年 モンミューゼ沼津(沼津市立美術館)にて初個展(館企画)

その後2021年4月末まで 美術館・ギャラリー等で企画個展37回

グループ展92回(ビエンナーレ等はグループ展に含む)

2021年オリジナルソロフルアルバムThe story of waterリリース

(パーカッション ディジュリドゥ ムピラ奏者)

現在、築150年の古民家を廃材等を使い直しながら大地に根差した生活・制作をしている。



クルミ・水晶・ガラス・銅

救世種



水の記憶

子供のころ箱眼鏡で水中を覗いた時まるで異世界を見ているように錯覚した。海岸に転がる雑多な石達も宇宙が出来て以来 様々な経緯をたどり今ここに存在している。偶然できたというにはあまりにも出来すぎた宇宙に立つ自分。地球上で色々なものに触れ合いながら循環し続ける水。今日僕の体の中を通り抜けていった水は100年前はどこを旅していたのだろうか？色々な物質に触れながら自然の力で浄化された水は大地から滾々と湧き上がる。現在汚染された水は 数年後僕の体を通り抜けるのかもしれない。その時水は僕の体を通り抜けながら少しは浄化されるのだろうか？



「ホシノタマゴ」 つば美術館野外展示場

ホシノタマゴ
植物の種子を内包した
土を固めた泥団子

セメントで固めた土と種 風化するセメント 転がり落ちた種
アルカリの土壌に 酸性の雨が降る 選べぬ環境に 適応し生き延びる
大地を吸い 酸素を作る 花は咲く事を疑わず 天を仰ぎ
動物たちに 命の源を与える
総てが影響しあつて 今を刻んでいる その理を説明することは出来ないが
それでも繋がっている事を感じて生きてる
ここは植物と動物の共存しているホシなんだ

※掲載されている写真の作品はMuseum SHIRASUNAに展示されていない場合もあります

